

2019年4月1日

ヒグマの会 会長  
坪田 敏男 様

北海道知事候補 石川ともひろ

## 質問への回答

皆さまの日頃のご活動に心より敬意を表します。先にいただきました質問状に回答させていただきます。よろしくお願いいたします。

質問1 【自然環境政策】北海道の森林や野生動物などの自然環境は貴重な財産ですが、その保全や活用について、どのようなお考えと基本政策をお持ちでしょうか。

### 【回答】

北海道の森林やヒグマをはじめとした野生動物などの自然環境は、日本国内にとどまらず世界的にも豊かなものであり、この北海道の自然環境資源を、全道民の大切な財産として、保全し、かつ活用しなければなりません。

この自然環境と生物多様性を持続可能的に保全することは、道民の地域への愛情と誇りを強めて心を豊かにするとともに、北海道の魅力をさらに高めて観光客や移住者などの増加にもつながるでしょう。この価値を守り、観光や地域づくりに活用することで経済効果も生み、その富を地域社会に還元して道民生活を豊かにすることが大切と考えます。

そのためには、道政としても担当部局が力を発揮できるよう専門職員など人員・予算を抜本的に増やすことが不可欠ではないかと考えます。また、この政策の重要性について、情報発信や環境教育の推進などを通じて道民の理解を促進することも不可欠でしょう。

政策の具体化に当たっては、皆様のような専門家のご意見を伺いたいと考えますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

質問2 【ヒグマ観】 北海道にとってヒグマはどのような存在であるとお考えでしょうか。

【回答】

ヒグマは陸上では国内最大の野生動物であり、このヒグマの存在は北海道の自然がいかに豊かであるかの証明であり、自然だけでなく歴史や文化を語る上でも欠かせない象徴的な動物ではないでしょうか。

ヒグマを北海道のシンボルと位置づけて、道民はもとより道外・国外に広く宣伝することが、北海道の豊かな自然とその保護、野生動物と人間との共生の意味、そのための政策の重要性などを、より多くの道民・国民に広げ共有することにつながると考えます。

質問3 【ヒグマ政策】ヒグマによる被害とその防止策、調査研究について、現状をどう見ておられますか？ また問題解決に何が最も重要であるとお考えでしょうか。

【回答】

潜在的には危険な生き物であるヒグマとの共生のためには、人間との軋轢を少なくし、人身事故や農作物被害などの被害を防ぐための保護管理が重要です。またこの際には、科学的な根拠に基づいて人間自身の行為を管理していくという認識も大切と考えます。

この間の皆様をはじめとした関係者の努力の中で、被害の防止策については、そもそも不要な接触を回避するための対策や農作物や産業廃棄物などの不適切な処理をなくすことをはじめ、道民への普及啓発などの対策が進められてきました。また、電気柵などによる防除手法の研究開発も一定の成果を上げていると思います。

しかし、これらの成果を具体的な施策の推進に十分生かせていないことが課題ではないかと思えます。鳥獣管理の現場を担当する市町村では、農林関係業務の合間で鳥獣業務に対処しなければならない実態であり、やはり広域自治体としての北海道が、専門職員の配置をはじめとして対応能力を高めて市町村と連携・サポートしていくことが問われています。

質問4 【人材配置】ヒグマをはじめとする野生動物の保護管理は、道内の3大学に専門講座が開設されるなど人材育成面では進んできています。北海道庁として野生動物の保護管理を現場で担う専門員を道内各地に配置するお考えはありますか。

【回答】

質問3への回答と関連しますが、ヒグマ対策は政策方向はかつての駆除一辺倒からの転換が果たされ関係者の努力が続いてきましたが、実際の現場段階では人材が不足しています。さらに、近年は生息数が著しく増加して農林業被害が深刻なエゾシカ対策や、外来種が野生化して急速に生息地域を拡大しているアライグマの対策など、従来以上に鳥獣対策の体制強化が必要になっています。

しかし、道庁では財政難から長い間職員も削減が続いて体制と人材の不足は明らかです。特に、本庁・環境科学研究センター以外に、地域に責任をもち日常的に市町村と現場で連携をとる振興局に専門職員の配置が不可欠と考えます。また、大学をはじめとした研究機関や各団体との連携もさらに強化する必要があります。道庁内では、これらの情報や対策を効果的に共有・推進するために、ヒグマを含めた鳥獣対策の庁内横断的な体制を構築することも必要と考えます。

質問5 【苦東コリドー】 勇払原野（苫小牧市など）は道央と日高地方をつなぐ位置にあり、防風林や河畔林がヒグマなど野生動物のコリドー（移動回廊）として遺伝子交流に役立っています。このコリドー保全についてどうお考えでしょうか。また、この地区にはIR（統合型リゾート）計画がありますが、それとの関連はいかがでしょうか。

【回答】

私はすでに政策で発表しているように、道や苫小牧市が積極的なカジノをふくむIRの誘致には反対であることを、あらためて明確にさせていただきます。

これはカジノだけの問題でなく、質問1への回答でも述べたように、ヒグマのみならず世界に誇る北海道の財産である生物多様性にあふれた自然環境の保全と活用が、北海道の価値と道民の誇りを高め地域と生活を豊かにすると考えるからです。北海道らしい観光の発展のためでもあります。

そうした理念に基づいて、野生動物の生息地の連続性を確保するためにコリドーの保全も重要な課題と考えます。苦東コリドーも、苦東開発の中で奇跡的に残されているといえ、こうした地域を保全するため具体的な野生生物生息地確保計画の策定が必要ではないかと考えます。

以 上